

検査00年04月

システム名 ユニバーサル 2インチ 型式 6ユニット パイプライン

設置年月 H11年 増築のため改良

静止時検査の結果概要

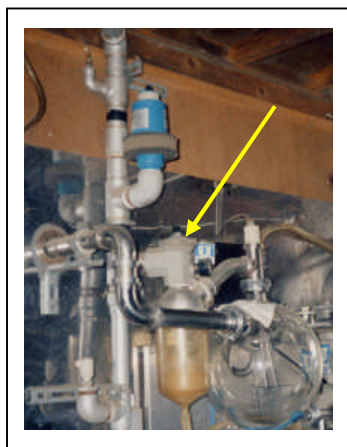
①パルセーターのNO, 6に少し異常が見られるくらいです。しかし、センチネルレギュレーターの能力維持には充分注意を払ってください。

コメント

牛舎増築前に、ミルク設置の打ち合わせをしていたので大きな問題は生じていない。増築部分の牛床を低くする事で、ミルクラインの傾斜1%は余裕を持って付けられるように増築した事が一番良い結果を生んだ。増改築時は、ミルクの改修の良いチャンスでもある。この時にミスをする、そのミスがずっと継続して影響を与える。

1年に1回はミルク一点検を実施しているので、通常は大きな問題点は生じていないが、パルセーターに少し異常が出現してきている。これを知らないで長期間使用すると、乳頭が痛み乳房炎の基になる。

以前、高泌乳牛が搾乳中にうるさくなり、ミルクを蹴落とすようになった事がある。ひどい牛では乳頭から出血し、乳頭炎を発症していた。相談を受けた後、ミルクに原因があると思いミルク一点検を実施した。その結果、レシーバージャーとレギュレーターのとの間に異常がある事が判明した。業者に問い合わせると、異常部分には配管の直角の曲がりと口径の絞りがあるとの事。バキュームポンプの能力は充分であっても、実際に搾乳に使用できる真空の供給はすくなくなかった事が原因であった。分娩直後の勢いで高泌乳になり、その結果クロー内圧が低下して乳頭マッサージができなくなり、乳頭炎を発症したものである。乳頭炎まで発症する事はまれであるが、乳頭口を傷める事は多くあり得る事です。過搾乳ばかりが乳頭口を傷めるのではなく、乳頭マッサージ不備も乳頭口を傷めます。



修理前の配管の様子。

矢印部分に曲がりと絞りがあった。この部分の配管が唯一、レシーバーに真空を供給し、クローに真空を供給するラインである。その口径、曲がり方は重要である。